

購読拡大の取組をお願いしてきました。

- ・「全国へき地教育新聞」は、全国のへき地教育研究連盟が編集し、教育新聞社が発行するもので、全へき連とへき地・複式校を結ぶ唯一の機関紙である。内容は、各種教育情報や教育実践を発表するなど、私たちがつくる私たちの新聞である。
- ・「全国へき地教育新聞」は、読者の購読料によって刊行されており、数の減少が発行を困難にする大きな要因になってきている。
- ・各地区へき・複連の財政に多少の貢献がある。各地区へき・複連で納入する場合、一部につき 150 円の還元がある。

<取組の手立てとして>

- 各地区へき・複連で地教委等、関係機関に購読料の予算化を働きかける。
- 各地区へき・複連の会議、会合などで購読を呼びかける。
- 各地区へき・複連に「全国へき地教育新聞」担当者または係を置くようにする。

以上のように、各地区へき・複連のご協力をいただき、購読拡大の取組をしていますが、思わしい拡大につながっていないのが現状です。今後ますます統廃合や町村合併、市町村財政逼迫等により購読数が減少することが予想されますが、「全国へき地教育新聞」の「へき地・複式・小規模校交流の場、情報交換の場」としての意義を理解していただき、今後さらに購読の働きかけを強く呼びかけていく必要があります。

②「全国へき地教育新聞」原稿執筆の取組

原稿種別、送付月を地区毎に割り振り執筆をお願いしました。各地区・複連のご協力と執筆者各位に心よりお礼と感謝を申し上げます。

新聞掲載については、順次掲載されており、情報、実践の交流がなされております。

③「全国へき地教育新聞」の執筆原稿送付について
平成 18 年度の原稿執筆送付については、下記の通りお願いしました。

全国へき地教育新聞編集局の依頼で、「全国へき地教育連盟」行きの封筒に「原稿とフロッピー」を

入れることになっていきますので、次年度もそのよう
にお願いします。

④「全国へき地教育新聞」の《原稿種別》

1. 論評（市町村教育長、各局指導主事）
2. 山紫水明（校長）
3. 随想（教頭、教務主任、学級担任など）
4. 心温まる話（どなたでも）
5. 私の推薦する一冊の本（校長、教頭他）
6. やすらぎ保健室（養護教諭）
7. さわやか事務室から（事務職員）
8. わが町・わが学校（父母）
9. 研究実践校紹介（実践校）

「全国へき地教育新聞」原稿執筆者地区別一覧
(平成 18 年度原稿本数 38 本)

原稿種別番号	8 月	9 月	10 月	11 月
1	◇	後志	◇	十勝
2	日高	檜山	十勝	根室
3	石狩	胆振	上川	留萌
4	根室	網走	釧路	宗谷
5	空知	十勝	胆振	網走
6	渡島	上川	宗谷	檜山
7	宗谷	空知	石狩	後志
8	釧路	渡島	日高	空知
9	後志 檜山	留萌 日高	網走 渡島	胆振 上川